

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	認知症対応型共同生活介護 グループホームこもれび (ひまわり)	評価実施年月日	平成22年2月16～17日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月9日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所独自の理念を作り玄関入り口とリビングに掲示している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員採用時に理念を理解していただき、朝の申し送りや職員会議、カンファレンス等で再確認することで共有し、日常のケアで実践している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族には契約時に理念の説明をします。理念は玄関とリビングに掲示。町内会、入居者家族、市役所などに出席して頂き運営推進会議を開催している。</p>	○	<p>突然来訪された方にも、見学していただき多くの方々に施設や理念を理解していただけるよう心がけている。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>玄関に鉢植えやベンチを置き、近所の方も散歩時に自由に利用されている。近所の方とは日常的に挨拶を交わしたり時には世間話をしている。恒例行事の焼肉昼食会には必ず招待し参加できない場合は焼きあがった惣菜を持参して大変喜ばれている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>お祭り見学や屋台を楽しみに出かけているが、入居者の高齢化、ADLの低下により行く回数が減っているのが現状。</p>	○	<p>外出を楽しみにしている入居者も多いことから、勤務調整をして、職員数を増やし安全に外出できるようにしている。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>キャラバンメイトの登録者が数名おり、法人としても登録者を増やし地域に貢献できればと取り組んでいる。また、中学生の体験ボランティアの受け入れや、ヘルパーの施設実習の受け入れを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議で評価について十分に説明し、理解を得ている。外部評価は職員会議で報告、話し合いし改善策を出し取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	管理者は運営推進会議の議事録を職員に回覧、職員会議で話し合いの場を設け、サービス向上につなげている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者は市役所に気軽に相談して意見を求め参考にしている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用で	現在、利用している人はいないが、必要な人には活用できるように地域包括支援センターと連携していく。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	マニュアルがあり、利用者の権利にも示している。職員には無記名アンケートを不定期に実施しており、虐待は防止されている。	○	虐待というより適切な介助方法か、体調管理の意味も含めて入浴の時に身体の皮膚観察を行っている。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に、不安な方には家族と一緒に体験入所を勧めている。また、入・退所時には管理者が不安や疑問を尋ね十分な説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口の設置及び玄関前廊下に設置を明記した内容と苦情申込書を掲示している。又、口頭によるものも傾聴し、その都度改善するようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	個々にあわせた報告としては、家族の面会時に近況報告している。又、体調に変化が生じた場合、電話で報告し相談を行っている。定期的な報告としては、暮らしぶりについては「こもれび通信」、金銭については出納帳のコピーと領収書を毎月送付している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の申し送りでも家族からの意見を職員と話し合いケアに反映している。また、第三者委員会の設置も明記し掲示している。	○	家族の意見を反映させ、職員紹介を廊下に掲示した。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回(カンファレンスを含む勉強会・職員会議)職員の集まる機会を設けて意見を法人に反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	シフト時間帯の調整や職員の増員等の調整は必要に応じ職員と話し合い勤務希望を考慮しながら行っている。	○	行事などでも職員を増員し利用者が楽しめるよう工夫している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職の申し入れがあった場合、しっかり話しを聞くが止むおえない職員の異動や離職については、入居者への配慮を含む声掛けに勤めている。	○	異動の場合は、時々顔を出すなどして入居者に配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>GH協議会や支庁関係の研修機会を順番に受講しているほか、近隣の研修にも参加している。受講後は資料をコピーして皆で勉強会をしている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>近隣のグループホームとの連絡会に入会し年4回の研修会に参加して連携を保っている。職員同士の交流もある。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>施設長が年1回個別にヒヤリングを行ない希望、要望、悩みを聴き、働きやすい職場作りを検討している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員個々の勤務状況を把握するほか、「介護福祉士」資格習得者には給与面でメリットがある。各自、向上心、向学心を持って勤務しており、そのため勤務調整も必要に応じておこなっている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談から見学、入居時に本人から困っていることや、体調について聴く機会を何度も設け、入居後も傾聴を心がけ早期に馴染めるように努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談から見学、入居時に家族からよく聴く機会を設け、お互いの想いをより良いケアに活かせる関係作りに努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時点で、まず必要としている支援を見極め優先順位のなか、他のサービスも含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族と相談し、家族と一緒に体験入所をし、場の雰囲気に馴染めるように工夫している。今の所、ショート利用からの入居者はいない。	○	ショート利用で徐々に馴染み入所する利用開始方法にも取り組んでみたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に調理やレクレーションを行ない、本人から調理方法や昔のことを教えていただいたり、時には地方のわらべ歌や生活の知恵を拝借する事もある。また地域の歴史を教えていただくこともある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の来訪時には近況を報告し意見を聞くなど、共に支えあう関係は築けている。行事に家族も参加し食事を一緒に楽しむ他、行事の手伝いをしてくださる方もいる。又、来訪時にハーモニカ演奏をしてくださったり、歌詞カードを書いて持って来てくださる方もいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居してからの様子は随時報告し、家族も知らない一面が観えたと喜ばれる等良い関係が築けるよう支援している。また、家族の訪問や宿泊は自由であり、家族との絆がより一層深まる努力をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族との外出、外泊は自由であり、家族の大切な絆を支援している。又、自由に家族と連絡がとれるよう電話や手紙の支援もしている。家族以外でも、幼なじみや友人の訪問も自由にしていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、良い関係が築けるように間に入り話を盛り上げるなどの配慮をしている。又、関係改善や介護状況にあわせて食卓席の席換えやリビングソファの模様替えも臨機応変に行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も、他の施設や病院に入院している時はお見舞いに行くなどして、良い関係を保っている。退所後であっても葬儀に参列することもある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居間もない頃から、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。家族にも本人の希望を伝えて検討し、会議等で職員も把握し日々の対応に活かしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に家族から聞き、本人とは日常の会話の中で昔の経験を聞かせてもらい生活歴を把握している。サービス利用は担当ケアマネジャー等の情報提供がある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	排泄、入浴、睡眠、食事量、バイタルチェックなどのシートを作成し、また、介護記録により本人の1日のリズムや心身状態を把握し、安心して暮らせるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を	毎月のカンファレンスで本人の状況を把握、家族からの情報も大切にケアプランの立案に努めている。見直し時は、それを基に職員同士での意見交換を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は必要に応じて適宜見直しをしている。見直す変化が生じた場合は、本人、家族、関係者と話し合い新たな計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	排泄、入浴、睡眠、食事量など、個人状態を記入し、介護記録に日々の様子や実践、結果を記録し、カンファレンスを基に介護計画に活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族が些細なことでも相談や意見を言える雰囲気を作るように心がけ、法人でできる最大限の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化教育機関等と協力しながら支援している。	消防に救急救命講習や避難訓練の協力、体験学習の中学生ボランティアの受け入れや社会福祉協議会から訪問音楽教室、民謡ボランティアなど受け入れている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	併設施設との連携による月1回の出張理容の利用、週1回の訪問販売等本人の意向を汲んだ支援を行っている。又、退居の際は次の施設に移るための情報提供や支援を、体調不良時には訪問看護ステーションの意見を参考にしたり、入院時には医療施設と退院にむけて話し合いを繰り返している。	○	出張美容の希望がある場合、準備がある。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	管理者が権利擁護の相談やグループホームの空き室の情報を電話等で行っている。また、地域包括支援センターからの問い合わせもある。ケアマネ連絡会の参加もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者に心身の変化がある場合には気軽に相談ができ、入居者の健康管理を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携病院や精神科病院との連携がとれており、家族を含め相談体制は取れている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者に変化がある場合には24時間の連絡体制にある訪問看護ステーションによる訪問、指示をうける。看護師が週1回来訪し、入居者の健康管理を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そう	入院した時は病院関係者との情報交換や相談に努めている。退院に向けての連携も取れている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有して	随時、入居者の健康状態を把握し、早い段階から家族と終末期に於ける希望を聞くようにしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族と相談しながら考えに沿った形で支援して行きたい。看取りについては、ケースバイケースだが、いままで施設での看取りを希望する人はいなかった。	○	内科医による往診を検討している。栄養、入浴、体制等の問題をひとつずつクリアして検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>別の居宅に移り住む場合、情報交換を密に行ないダメージが少なくなるように努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員は入居者個人に合わせた声掛けをするよう支援している。また、状態に合わせたさりげない声掛けを心がけている。更衣や入浴時は戸を閉める、排泄介助する時にはひざ掛けを使用する、オムツ等を持ち歩く時には巾着に入れる等プライバシーに気をつけている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者の意見を尊重し、自ら選んでもらうような機会を作り支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者優先に心がけ、入居者のペースで生活が出来るように支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>服装も自分で選んでもらい、理・美容も本人の選択により利用している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>何が食べたいか聞きメニューに取り入れたり、その人にあつた量や調理法で食事を提供している。また、配膳の準備や調理の下ごしらえ、後片付けはできる所を一緒にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	酒は以前は愛好者がいたが、今は行事の時に楽しんで頂いている。タバコは喫煙場所を決め職員が見守りし喫煙出来るようにしているが、現在は希望者がいない。おやつは落ち着ける場所(自室やテレビ前ソファーなど)で召し上がる方もいて、本人の希望にそった支援をしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	個々の排泄パターンを把握し、Dパンやパット使用者には声掛けをトイレでの排泄を促している。排泄パターンを把握することで紙パンツが外れた方もいる。	○	パットに番号を付け枚数を確認し頻会なトイレの回数の把握に努めた。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	失禁時は状態により洗体を行うが、希望の時間帯や順番、湯船の温度等を工夫して入浴している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者の状態にあわせ、居室で休んでもらうように促すが、リビングが落ち着く方についてはソファ等での傾眠を見守りする場合もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者の出来る事を把握し下膳や食器拭き、縫い物、掃除等を一緒に行っている。入居者同士でトランプ、百人一首を楽しんでいる姿も見かけるが、午前と午後にレクを企画し、歌や、紙芝居、ぬり絵、貼り絵、散歩等楽しんでいる。	○	畑仕事が好きな方がいて、一緒に野菜を作り皆で食べている。書道が得意な方がいて献立を書いていただく事もある。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者は管理可能な金額を本人が持ち合わせている。それ以外は事務所で小口現金として預かる等の対応をしている。入居者によって化粧品代を所持金から支払ったり、小口現金の補充に応じる方もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	いつでも希望があればドライブや買い物に出かけている。日課的に周辺の散歩にも出かけているが、高齢化にともない回数は減ってきているし、行動範囲も狭くなってきている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	普段行けない所(サクランボ祭り、花見、きのこ王国、ブドウ狩り、外食)は、企画して外出している。又、家族と墓参りや結婚式、食事など出掛けている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも電話を使用出来る様に廊下に公衆電話を設置。家族とも気軽に連絡がとれる。手紙や写真を送ったりの支援もしている。	○	希望により個人で電話を設置しているかたもいる。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも出入り自由になっている。来訪時には本人の部屋にお茶の用意をしてくつろいでもらえるようにしている。遠方から一週間単位で来られる方もおり、併設施設に低料金で宿泊も可能。ご家族から喜ばれている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルはあるが、グループホームにおいて拘束は必要ないと考えている。理念に基づき身体拘束は行っていない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上、施錠時間を決め行なっているが日中は鍵を掛けていない。居室の施錠は本人の自由に行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は連携して入居者個人の様子や行動を把握、プライバシーを守りながら支援、見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ライターについては入居時に防火上お預かりしている。薬や洗剤は定位置で管理し誤飲、誤薬を防ぐ。台所、掃除庫、洗濯室、物品庫等のリスク管理の対策をとっている。	○	はさみ、縫い針、包丁(くだものナイフ)の使用については近くで見守りをして怪我のないよう注意している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態をみながら想定内・外の事故に繋がらないよう常に職員と話し合いながら防止に取り組んでいる。	○	服薬についても複数の職員が確認し、入居者が飲み込むまで見守りしている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	最低限の知識はヘルパー講習で身につけている。マニュアルは目の届く所に掲示したり、消防署の救急救命講習会を2年に1度のペースで受講しています。又、勉強会や訪問看護師との連携もしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	建物の構造上、問題がある点もあると思うが、年2回の避難訓練は昼夜を想定し行ない、緊急時における対応方法を身につけている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	特に入居時や退院後の状態変化によるリスクを家族と話し合い、対応策を含めた理解と同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェック、体温チェックを行ない記録を残し、職員は朝の申し送りで引き継いでいる。異常がある場合訪問看護師の指示を受けるが緊急性の高い時はすぐに医療機関を受診をしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の薬を把握しており、職員一人ひとりが責任を持ち、薬を渡し服薬の見守りをしている。効能がわからない時は、その都度「薬情報ファイル」で確認、薬が変わった時は連絡ノートに記入し情報を共有して。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	入居者一人ひとりの排泄チェックを行ない、声掛けや状態により排泄状況を確認。毎日ヨーグルトや野菜の摂取で便秘予防を心がけている。Drの指示により下剤の調整を行う事がある。	○	予防に1日1回程度の口腔体操やフロア歩行を継続している。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、自ら行える人には声掛け、見守りをして口腔ケアを行ない、介助が必要な方は職員が行う。口腔内の清潔は保たれている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立を記録し、食事量、水分量チェックを行ない最低限の必要食事量、水分量を確保し、栄養バランスを考えている。一度に摂取できない方は回数を増やし食事を提供している。水分制限ある人には説明をし、納得してもらうようにしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザ予防接種を全員行ない職員も一緒に予防に心掛けている。感染症が発症した場合、感染マニュアルに準じて行動できる用意がある。	○	通院時には、マスクを使用。流行している時期には職員もマスクを使用し外部からの感染予防に気を使っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、布きん、まな板の消毒を行ない、食材は毎日発注している。台所は毎日整頓し清潔を保つよう心がけている。台所に衛生マニュアルを掲示している。	○	食材に直接触る時はポリエチレングローブを使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	段差の無い玄関前には鉢植えやベンチを置き、日中は施錠していないので誰でも自由に出入りできる。インターホンや廊下出入りにセンサーを設置することで事務所で出入りを確認している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしてい	季節の飾りや写真を飾り、雰囲気づくりに心がけている。又、レクで作成した手作りの作品を掲示している。照明は明る過ぎず暗からず丁度よいと思う。不快は音や臭いがないように常に心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	空きスペースを使いソファやテレビの用意。窓辺にもテーブルと椅子を置き談笑しながらお茶を楽しめる場所が確保され、雰囲気が良い。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室とも、その人らしい居住空間ができていて、家族が本人好みの物を持ち込み、使い慣れた家具を置き、テレビの設置等の心地良く過ごせる工夫がされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各室、空調のロスナイが設置され空調調整が利き快適に過ごしている。また、セントラルヒーティングにより寒暖の差がないので季節に関係なく過ごしていただく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ、浴室、廊下等の手すりの設置。床はクッションフロアと転倒に注意し安全面に工夫している。階段が使用が出来ない方のためにエレベーターもある。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	その人らしい生活を尊重し、出来る事を楽しんで行う事で残存機能が低下しないように自立した暮らしの支援をしている。トイレに看板をつけたり、自室前に名前を掲示したりして、わかりやすい工夫をしている。	○ 季節を感じて頂ける様な掲示を工夫をしている。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	鉢植えを置いたり、畑で作物を育てたり、玄関前で家族との交流を目的に食事会を開き外での活動も楽しんでいる。施設前は私道なので交通量が少なく車椅子や歩行器の使用ができる。	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>② 家族と外出したり、本人の意思で買い物に出かけたり、心身の状態に合わせた生活を送っている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>① その日の状況によるがほとんど毎日、お茶を飲みながら話をしたり、歌、レク、フロア歩行等、職員とともにゆったりと過ごしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 入居者一人ひとりのペースにあわせ、ゆったり生活できるよう支援しており、就寝、起床時間なども個々の意向を尊重している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 毎日の生活の中で何気ない会話、作業の中から喜怒哀楽があり豊かに過ごしている姿が見られます。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① ほぼ全ての入居者がドライブ、屋外行事、買い物、時折の夕食等、出かけることが出来ている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 定期受診は職員が付き添い、その時の健康状態により、迅速に医療機関への受診が出来ている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 個人の要望があれば、極力聞き入れ、心配事を取り除いてあげられるよう心がけている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>② 面会時は勿論のこと、必要であれば家族との意見要望、こちらの意向を伝えて家族、職員間の信頼関係を築く努力をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p> <p>③ 交流会等では、町内の方、馴染みの方、家族の参加があり、ボランティア、学生の来訪もある。</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない</p> <p>② 運営推進会議等からも理解してくれる協力者が段々増えているように思われる。外で会うと挨拶を交わしたり、電話連絡の援助があったり地域との繋がりが、深まっている。</p>
98	職員は、生き生きと働けている	<p>① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p> <p>① 悩みや体力的な不安を抱えたりする事もあるが、入居者が楽しく快適に生活できる工夫をそれぞれが考え、実践するなかで、入居者と喜びや楽しみを共感することが多く、生き生きと働けている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p> <p>① 意思の尊重、押し付け、無理はさせず、自由に生活していただけるように心がけているので、満足していただけていると思う。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p> <p>② 面会に来られた際、心身の状態、生活状況を報告し、職員も会話に加わり情報交換をしながら交流を深め、家族の方も自然に要望を伝えてもらっている。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

家族との交流が継続できる機会の外出、外泊、家族の滞在を支援。また家族同行の通院介助の支援を大切にしているグループホームです。